

福岡県の主な農産物の生産状況

令和2年7月15日現在
(専技情報より抜粋)

◇早生水稲(夢つくし、コシヒカリ)◇

4月中下旬植えの出穂期は7月9～15日程度で平年並みです。稈長は平年よりやや長く、穂数はやや少ないです。

穂揃期～乳熟期にウンカ類とカメムシ類対策を徹底しましょう。また、出穂期前後は水を切らさないよう管理を行いましょう。

◇普通期水稲(夢つくし、元気つくし、ヒトヒカリなど)◇

5月下旬植え「夢つくし」は茎数が確保され、中干し時期を迎えています。7月上旬からの多雨、日照不足の影響で、軟弱徒長の生育となっています。また、7月5日からの大雨により、冠水が発生した地域もあります。スクミリンゴガイの発生量が平年に比べて多く、ウンカ類の飛来は、平年より3週間程度早い5月上旬から始まり、飛来量も多いです。現時点では、いもち病の発生は少ないです。

冠水した場合は、早急に排水を図り、冠水時間を短くし、排水後は用水の入れ替えを行いましょう。また、浸冠水により、スクミリンゴガイの発生が多くなるため浅水管理を行い、対策を徹底しましょう。雑草が多い場合には、中後期の除草対策を実施しましょう。6月植えは、茎数が確保され次第中干しを開始しましょう。ウンカ類やいもち病等病害虫の発生に留意し、適切な対策を行いましょう。

◇大豆◇

播種は、県北部を中心に6月中旬から開始されましたが、多雨の影響で7月9日時点の播種進捗は87ha(前年同期1,017ha)と進んでいません。また、7月上旬播種については、大雨の影響により出芽不良が発生しています。今後、降雨の合間には播種条件が整い次第、播種が本格的に進むでしょう。

土壌水分が適度になったら速やかに播種しましょう。土壌の乾湿に応じて播種深度を調整しましょう。また、再播種や播種時期が遅くなる場合は、播種量を増加しましょう。

◇夏秋ナス◇

雨よけ栽培は、3月中旬から定植が行われました。4月の低温で初期樹勢がやや弱くなったほ場もありましたが、全体的に生育は順調に推移しました。露地栽培は、4月末～5月中旬を中心に定植が行われ、好天に恵まれたこともあり、順調に生育しました。しかし、7月6日の大雨により、県南産地を中心にほ場が浸冠水しました。今後、多雨の影響もあり、草勢低下や青枯れ病等の土壌病害、褐紋病等の病害発生が懸念されます。

浸冠水したほ場は、草勢低下が懸念されるため、早めの収穫や不良果の摘果、肥料の葉面散布で回復を促しましょう。雨よけ栽培は、谷、サイド、妻の換気によりハウス内の昇温抑制に努めましょう。また、病害対策を徹底しましょう。青枯病発生ほ場は、栽培終了後に土壌消毒を行いましょう。

◇イチジク◇

加温ハウスが出荷中です。出荷量は、前年及び平年並みで、品質は概ね良好です。7月上旬の大雨により、果実のカビ等が発生し、現在の出荷はやや減少しています。無加温ハウスおよび露地栽培の生育は、前年並み～やや遅く、出荷開始はそれぞれ7月中旬、8月上旬の見込みです。今後、多雨、日照不足の影響により、疫病等の病害や着色不良果の発生が懸念されます。

各作型とも適期収穫および鮮度保持管理に努め、今後の病害対策を徹底しましょう。特に、浸水被害の園地では、病気の蔓延防止のため、被害葉や果実の除去等の対策を徹底しましょう。また、新梢誘引や副梢管理を徹底し、受光体制を改善することで、品質向上を図りましょう。

◇スモモ◇

出荷は、主力品種の「大石早生李」が終了し、「ソルダム」が出荷中です。出荷量は、暖冬による花数の減少や開花期の天候不順による結実不良で、昨年及び平年に比べて少ないです。果実品質はカメムシ被害による低下が一部の園で発生しています。

誘引、新梢管理を徹底し受光体制の改善を図ることで、果実品質の向上や翌年の結果枝の充実を図りましょう。また、収穫後は、樹勢回復のために早めに礼肥を施用しましょう。

◇トルコギキョウ◇

6月の出荷量は、夏季出荷作型（6～9月出荷）に取り組む生産者が減少し、83%と大きく減少しました。需要も少なく、販売単価も前年比93%と低下しました。

秋出荷作型（10～11月出荷）では、冷房育苗が行われ、定植は7月下旬から順次開始されます。

秋出荷作型では、定植前から寒冷紗を被覆し、定植時の地温低下を図りましょう。

定植後は抽台開始まで十分なかん水を行いましょ。また、夜蛾類対策（防虫ネット、黄色灯の設置）を徹底しましょう。

◇ホウズキ◇

生育は、草丈約90cmと昨年よりやや短いものの順調で、着果状況も良好です。白絹病の発生は少ないです。出荷最盛期は、実のみの出荷は7月下旬、実付き枝の出荷は7月末～8月初旬の予定です。

降雨後の白絹病、斑点細菌病対策を徹底しましょう。

◇畜産◇

和牛枝肉単価は、対前年比及び過去5年平均比は、25%を超える下落となり、需要回復が進んでいません。交雑種相当の省令価格も、前年比77%、過去5年平均比で79%と大幅に下落しています。

高温多湿のため、送風や遮光等、暑熱対策を徹底しましょう。また、水稻にトビイロウンカの発生が認められています。飼料イネのトビイロウンカの対策を徹底しましょう。